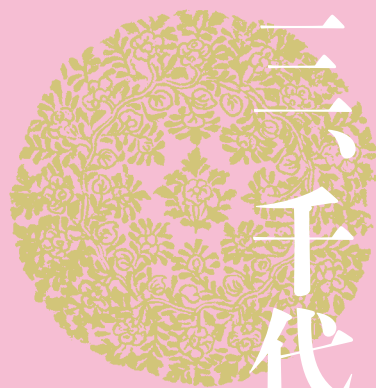


今昔雅楽集

三、千代の楽人



【出演】伶楽舎 れいがくしゃ

【演目】

◆第一部

芝祐靖 復曲

拾翠楽一具

芝祐靖 復曲

復元正倉院楽器のための

敦煌琵琶譜による音楽から

急胡相聞、傾盃楽、急曲子

◆第二部

芝祐靖 作曲

管絃のための即興組曲

《招杜羅紫苑》

*16時45分から伶楽舎メンバーによる
プレトークがございます。



Gagaku – Japanese Court Music – from Times Past III. Revitalising a Millenary Tradition

「今昔雅楽集 一、七夕の宴」より 撮影：田澤 純

Reigakusha, Gagaku Ensemble

Program

Part I

Jissuiraku Ichigu (reconstructed by SHIBA Sukeyasu)

Ji Huxiangwen, Qingbeiyue, Jiquzi

From Music based on the Dunhuang lute manuscripts

(reconstructed by SHIBA Sukeyasu),

for instruments reconstructed after those of the Shōsōin

Part II

SHIBA Sukeyasu: Suite for Gagaku ensemble “Shōtorashion”

Saturday, July 4, 2020. Open 16:30, Pretalk 16:45, Start 17:00

Art Tower Mito, Concert Hall ATM

¥3,500, U-25¥1,000

2020年7月4日[土]

16:20開場*16:45プレトーク*17:00開演

水戸芸術館コンサートホールATM

◎料金(全席指定)：一般3,500円/U-25(25歳以下)1,000円

<セット券> 5月2日の「体験! はじめての雅楽」(裏面参照)と同時購入すると、
セットで大学生以上は500円割引、高校生以下は300円割引になります(窓口・電話予約のみ)。
※U-25チケット、セット券の取り扱いはいは水戸芸術館のみ。

◎チケット発売：2020年2月29日[土]

財団運営維持会員先行予約：2月24日[月・振] ※電話・web予約のみ

水戸芸術館メンバーズ先行予約：2月26日[水] ※電話・web予約のみ

主催：公益財団法人 水戸市芸術振興財団

水戸芸術館
ART TOWER MITO

今は昔、滋井因叶なる人、高麗の国より渡来して「狛」の姓を名乗り、子々孫々、南都（奈良）の興福寺に楽人として仕えたと謂われます。狛家はやがて上、西、辻、芝など八家に分かれ、京の宮廷に比肩する音楽組織「南都楽所」の繁栄を築きました。これらの楽家（楽人の家柄）出身の音楽家は、今も宮内庁楽部で活躍しています。

1935年生まれ、芝祐靖もその一人。宮内庁楽部の一員として千年以上の雅楽の伝統を受け継ぎながら、同時に演奏伝承の途絶えた楽曲の復元や雅楽の可能性を広げる作品の創作に取り組んできました。その活動はついには宮内庁を飛び出し、民間の雅楽団体「伶楽舎」の創設をはじめ、雅楽の門戸を開く活動へと発展します。芝祐靖の存在なくしては、雅楽が宮中や寺社の儀式を離れて広く聴かれることはなかったかもしれません。フィギュアスケートの羽生結弦選手の「SEIMEL」の音楽、といえ、芝の吹く龍笛の音色を思い出す人は少なくないはずで。

—— 没後1年 当代随一の楽師・芝祐靖が見つめた雅楽の今昔 ——



撮影：田澤勝彦

芝 祐 靖 (しば すけやす)
SHIBA Sukeyasu

1935年東京生まれ。奈良系の伶人の家に生まれたため、宮内庁楽部予科、引き続き楽生科に入学。横笛、左舞、琵琶、古代歌謡などを修め、1955年卒業。宮内庁楽師（総理府技官）として主に龍笛で活動。古典雅楽の演奏のほか、現代雅楽、現代邦楽の作曲・演奏を行い、雅楽廃絶曲の復興も手掛ける。1984年宮内庁を退官し、横笛演奏を中心とした活動を始める。1985年伶楽舎を結成し、音楽監督となる。また、国立劇場の正倉院収蔵楽器復元に参加し、敦煌琵琶譜などの復興にも携わる。1986年よりソロ、伶楽舎等のアンサンブルで海外公演も行っており、古典・現代雅楽の紹介活動につとめている。2003年より日本藝術院会員。2009年旭日中綬章授章はか受賞多数。2011年文化功労者。2017年文化勲章受章。2019年7月永眠。

●チケットの取り扱い
水戸芸術館 (9:30~18:00/月曜休館)
・エントランスホール内チケットカウンター
・チケット予約センター 029-231-8000
・ウェブ予約 <https://www.arttowermito.or.jp/ticket/>
e+ (イープラス) <http://eplus.jp> (PC・携帯)
かわまた楽器店 029-226-0351
ヤマハミュージックリテイリング水戸店 029-244-6661 (店頭販売のみ)

●お問い合わせ：水戸芸術館 チケット予約センター 029-231-8000 / 営業時間：9:30~18:00 (月曜休館)

◎車椅子のお客様、盲導犬、介助犬同伴のお客様は、指定の座席へのスムーズなご案内のため予約時にお知らせください。

◎公演中止の場合を除き、一度購入されたチケットの払い戻し、交換等は出来ませんのでご了承ください。◎公演の内容、曲目等は、変更になる場合があります。◎未就学児のご入場はご遠慮ください。

雅楽の“今”と“昔”を集める「今昔雅楽集」。第3回は、2019年7月5日に逝去した芝祐靖の音楽を通して雅楽の今昔を見つめます。

幕開けは、古典曲〈拾翠楽〉に失われた楽章を芝が復元して加えた〈拾翠楽一具〉から。こうした失われた音楽への芝のまなごしは、雅楽以前の古代の音楽にも向けられます。中国・敦煌の石窟で発見された古楽譜「敦煌琵琶譜」は、発見当時は解読不能とされましたが、日本の雅楽の琵琶譜が解読の手がかりとなりました。第一部後半では、芝の手で復元されたその音楽を、正倉院収蔵の古代楽器の復元品を使ってお聴きいただきます。第二部は芝祐靖の創作作品から大曲〈招杜羅紫苑〉を。武満徹の雅楽〈秋庭歌〉に触発され、雅楽人としてこれに拮抗する作品を生み出したいと情熱を注いで作曲した芝の代表作。伝統的な雅楽の響きとシルクロードを夢想する異国風の旋律、モダンな音楽語法とが渾然一体となり、しかも親しみ深い作曲者の人柄が偲ばれる音楽です。



「今昔雅楽集 二、舞の絵巻」より / 撮影：田澤 純

伶楽舎 (れいがくしゃ) Reigakusha, Gagaku Ensemble

雅楽の合奏研究を目的に1985年に発足した雅楽演奏グループ。創立者・芝祐靖。現行の雅楽古典曲以外に、廃絶曲の復曲や正倉院楽器の復元演奏、現代作品の演奏にも積極的に取り組み、幅広い活動を展開。国内各地の他、海外の主要ホールに招聘されて演奏。古典曲や現代曲、復元曲のCD等も多数録音。現代作品や古典雅楽様式の新作として、これまで湯浅譲二、池辺晋一郎、増本伎共子、西村朗、猿谷紀郎、権代敦彦、伊左直治、芝祐靖他に作品を委嘱、自主公演で初演。2002年中島健蔵音楽賞特別賞、CD「秋庭歌一具」で2002年度芸術祭レコード部門優秀賞受賞。第16回(2016年度)佐治敬三賞受賞。2019年にはパリ・ジャポニスムに参加し「雅楽 伶楽舎×森山開次」が好評を博した。他に、解説入りの親しみやすいコンサートを企画し、雅楽への理解と普及に努め、子どもや小中学生のためのワークショップなども数多く開催している。なお「伶楽舎」とは「伶倫楽遊舎」、即ち、楽人の祖とされる古代中国の「伶倫」に因み、雅楽の源と新しい雅楽の創造を探索する、自由な活動を目指してつけられた会名である。

国内では、国立劇場、サントリーホール等主要ホールでのコンサートの他、全国の小中学校で公演。海外では、タングルウッド(セイジ・オザワ・ホール)、ニューヨーク(リンカーン・センター、カーネギー・ホール、ジャパンソサエティ)、ロサンゼルス(ウォルト・ディズニー・コンサートホール)、シカゴ(シンフォニー・センター)、ロンドン(クイーン・エリザベス・ホール、大英博物館)、アムステルダム(コンサートヘボウ)、ケルン(ケルン・フィルハーモニー・ホール)、パリ(フィルハーモニー・ド・パリ)他、約30都市で演奏。
<http://www.reigakusha.com>
<https://www.facebook.com/reigakusha>



プライベート開催!
体験! はじめての雅楽
2020年5月2日 [土]
13:30開場*14:00~15:30

会場：水戸芸術館コンサートホールATM

●料金 (全席自由)：子ども (小学生~高校生) 800円・大人2,000円
定員：〇〇名 ●チケット発売：2020年2月29日 [土]

雅楽がわかる! 楽しくなる! 楽器の体験もできて、雅楽がもっと身近になるワークショップです。伶楽舎のメンバーが楽器や音楽、舞を丁寧に解説。ゴールデン・ウィークにちなんで、昔から親しまれている童謡も雅楽にしてお贈りします。親子での参加も、大人だけの参加も大歓迎です!

●U-25チケットについて (枚数限定)
◎25歳以下の方が対象のお得なチケットです (未就学児不可)。
◎ご購入いただきましたご本人様のみご利用いただけます。
◎当日ご入場の際には、年齢を証明するものが必要となります。
◎取り扱いは水戸芸術館のみとなります。

●交通で案内：JR常磐線水戸駅北口より、バスターミナル4~7番のりばから泉町1丁目下車、徒歩2分。
水戸芸術館 水戸市五軒町1-6-8 〒310-0063
TEL.029-227-8111 <https://www.arttowermito.or.jp/>

